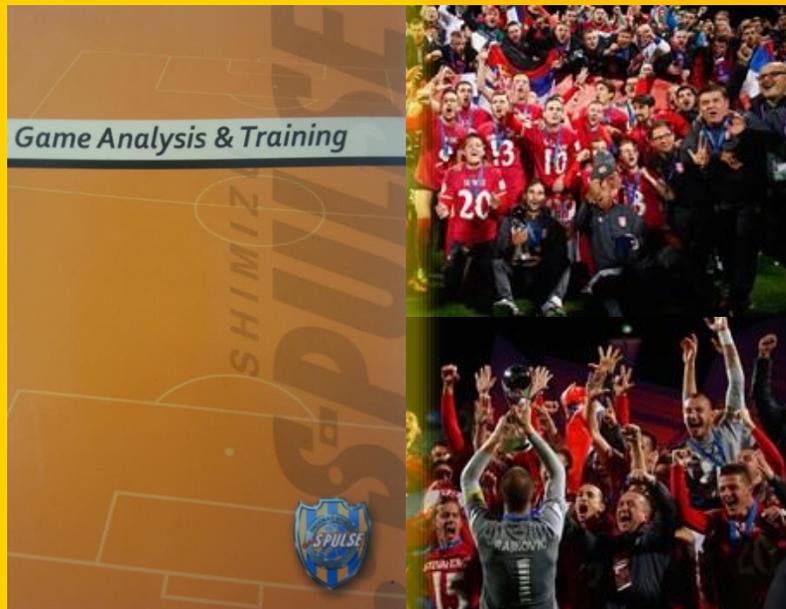




# 2015 U20ワールドカップ分析

Small Suggestions for youth development of S-pulse

分析をオーガナイズに結びつける



清水エスパルスAD 池谷 孝

# Introduction

## 1.自分自身であり続けること

自分自身の発見を、自分自身の創造を見出す以外に生存の原理がないということを彼らは知っている。

坂口安吾「黒田如水」

真似ることでは近づくことはできても追い越せはしない。

好奇心、子供っぽさがないと大切なものを見落としてしまう。

われは常に新たに生まれる。（変革の継続）

## 2.サッカーをブームではなく文化にする

クラブの情熱、指導者の情熱、選手の情熱が必要だ。

宮間あや

### 町内運動会のような雰囲気クラブを育てる

だれかれとなく暖かく応援する、選手や応援として誰もが参加する、各町内のまとめ、日常を離れた楽しみ、汗を流す、笑い喜び合う、話題にのぼり会話が弾む、人々が集う場の提供

### ベティスのサポーター

私たちの体には緑の血が流れている  
サッカーこそが情熱、サッカーこそがわが人生  
サッカーとクラブへの情熱を口々に語る



### 3. サッカーの原点

Mentality, Technique, physical strength



### 3. サッカーの原点

Mentality, Technique, physical strength



勝者は全てを奪い去る

The winner takes it all



1対1で負けたら次の試合はベンチにも座らせてもらえない





### 3.試合の様相（総括）

#### 攻撃

インテンシティを持った個のチャレンジと、担保としての  
即座の守備

密集/展開/即座の切り換え/繰り返し  
play closed/ play wide/ Quick transition/repeat

8人攻撃/全員守備

#### 守備

意欲的に奪う、コースを切りながら圧力をかける、  
1対1で責任もってシュートを阻止する



## 4.試合の様相と熟考(まとめ)

**シンプルに当たり前にサッカーをする**

**変わらぬものの価値を再発見し、変わっていくものに注目する**

### 密集・展開・即座の切換え・繰り返し

攻撃は、ボールの周りに味方が3, 4人いる状態から1対1の局面に展開される。ダイレクトプレーを意識しながら、技術に自信を持った個の仕掛けとパス(3人目、縦横のワンツープス)を使い分けながら前に前にとゴールに進む。

チャレンジして奪われることを問題視するのではなく即座に奪い返すことを意図する。仕掛けに対し味方がサポートポジションを取り奪われても即座に奪い返して決定機を作る。何度でも再チャレンジできる挑戦の繰り返しとでも言おうか。

カウンターのみならず意図的にボールを展開できるサッカーができるチームには、中盤にあらゆる角度からボールを受けられるボランチがいた。

サイドアタッカーは、ボールの出所(on)にプレスがあればサポートに入って中盤をつくるが、出所にプレスがなければ相手の背後にフリーランして(off)そこにパスが配給される。サイドでゴールライン付近まで突破しマイナスクロスを配給することで相手守備を崩壊させ多くの得点を生み出す。即座の守備とあわせて、これらは相手にカウンターをさせない攻撃でもありとみた。

ボールを奪われるミスも多いが、シンプルにかつ力強く密集・展開・即座の切換えを繰り返して相手の守備のほころびを見逃さずフィニッシュする。

守備では全員が守備に参加し即座の守備の躰けが行き届いている。奪う意欲にあふれたプレーが多く、圧力をかけながらディレイ、デナイしボールを奪おうとする。相手に展開され突破されるが最後は個人の責任とメンタリティの意識の下、個の力が相手のシュートを阻止する。



## 育成のキイ

# テクニック/強み/主体性/個人戦術/メンタリテイ

ポジションのプレー特徴が明確で、個それぞれの強みを生かしながら組織的にプレーする。

個人戦術や技術の面では、スペースを見つけ使っていくインテリジェンスが自然に発揮されている。縦横のワンツーパスを使いながらフリーになってスペースを衝いていく。

迅速なポジション取り、体の向きの整え方で視野を確保し選択肢をもってプレーできている。そしてパスして走る。

速いパス、速い動き（パス&ゴー）、意図のあるクッションコントロールとウェッジコントロール、もしくはランウィズアボール。浮き球の処理。技術と強みのない選手はもはや存在しない。

中盤では不用意なミスを避けてプレーする。奪われたら奪われた選手が即座に守備する、ゴールを守る守備の原則、セーフティファーストが躰けられシンプルに行われる。

GKも冷静にシュート場面では正しく構えて反応する。

ファウルをしないように気を遣う。個人戦術が身につけていない選手も存在しない。

南米的な出し手主体のサッカーと欧州的な受け手主体のサッカーの違い、局面を突破しようとするサッカーとプレーワイドを意図するサッカーの違いは存在するが、自分たちのスタイルを持ったサッカーを、シンプルにかつチームのサッカーに個が存在しながら行っている。

ゴール前で決定機を作り素晴らしい得点を決めるのも、絶体絶命のピンチを阻止するのも最後は個の力だと観た。これは論理的なきれいごとではなくその選手の精神力と技術と強さそのものだ。



## 育成は促成栽培ではなく段階を踏んで

個人的なかつ多くボールに触る子どものサッカーから、1回のボールプレーの時間が2コマ何秒、ブラジルワールドカップでのドイツのそれは1秒程度という大人のトップトップのパスサッカーに至る道筋はどうあるべきだろうか。

U17からU20のワールドカップを観た印象では、行きつく先が組織的パスサッカーだといって、U10、U12年代から組織的パスサッカーをやることは選手育成と選手の将来に不都合が生じるということだ。

例えば、人間の成長がハイハイから二足歩行になり、離乳し、ギャングエイジや反抗期、思春期を経て大人になっていくのと同じように、選手育成も段階を踏んで回り道をしながら行われるべきと思う。

端的に言えば、選手の強みを意識して伸ばし、ミスをさせない指導より、チャレンジの中から失敗と成功を経験させ成長のきっかけを見つけていく指導であると考えている。

サッカーをやるために生まれてきたタレントを見つけて選別しながら教育していく欧米の環境とは異なる日本のサッカー環境や子どもたちの実情を考えるとさらにその思いは強い。

ボール技術と視野の確保・認知力というテクニックの基本を辛抱強く習得させながら、選手の主体性と強みを伸ばし、スタンダードな個人戦術と勝利のメンタリティを植え付けていくことを根幹として、チームワークに優れたスペシャリストを育成する道筋を経ることが基本的な育成プロセスの王道だと思う。果たして自分の指導する子どもたちはそのプロセスのどのあたりにいてどう指導し、勝利との折り合いをどのようにつけていくのか。指導者にとって、悩ましくも優れた問いである。



## ドラえもんの「どこでもドア」があれば…

スタンダードな、奇抜でない、一貫したサッカーの原理原則や基本を押さえながらクラブや指導者自身のやり方を作り上げることを悠々と急ぐ必要があると感じる。

サッカーの多様性がサッカー界全体の質を上げる。

また、世界基準を意識しながら選手を育てチームを作るという言葉はわかりやすい正論であるが、週末にヨーロッパのチームと試合ができる日本の育成年代のチームはほとんど存在しない。現段階でヨーロッパサッカーにとってアジアサッカーはほとんど必要ではないだろう。

アジア諸国や日本国内・地域ごとのサッカーをヨーロッパ並みの多様性とクオリティに持ってこれればグローバルな意味での日本サッカー全体、個々の悩みはなくなるのだろうけれど。理屈と現実をどう解釈したらいいのだろう。おらがサッカーを世界のサッカーに近づけるには？指導者にとってこれまたよい問いだと思う。

## データか単なる記録か…トレーニングと試合の準備

例えば、先制点の勝利確率が70%前後、ボール支配率やシュート数、チーム全体の走行距離の多寡は必ずしも勝利に直結しない、40%（カウンターからの失点）40%（セットプレーからの失点）10%（組み立てられて失点）10%（その他アクシデントなどで失点）、試合開始・終了時間帯に失点が多いなどという種々の記録がある程度根拠を持つデータだとしたら、そのデータをトレーニングや試合の準備にどうしたら、どのように生かすことが可能だろうか。これも指導者にとってよい問いだ。



# 5.試合の様相



## Offence

力強く相手に仕掛ける、仕掛けた味方をサポートする、こぼれたボールを決定機につなげる  
立ち姿よく探りながらボールを運ぶ  
スペースを見つける・使う  
Onのプレッシャーの状況を見て相手の背後に走る、サポートに入る(2スイッチ)  
ゴールラインまで突破しマイナスボールを上げる  
カウンターを受けない攻撃

**密集** (tied,compact)

**展開** (use space,play wide)

**即座の切り換え** (transition)

**連続** (fire,Repeat)

Transition

Transition

即座の守備・奪ったら前へ  
DFラインで時間をかけずにアンカー、サイドを使って前線へ  
ブロックをつくるがスペースを使われ突破される

## Defence

即座の守備・カウンター阻止  
前線から全員で圧力をかけながらコースを限定し狭いスペースで奪う  
技術ミスを逃さない  
連動が乱れると突破される  
セットプレーが失点の危機  
最後は個人が失点を阻止

# 6.技術・戦術の様相

## Offence

スペースを見つけて  
スペースに出て  
止めて(1STコントロール)  
パスして(速いパス、メッセージパス)  
走って(クイック)  
シュートする

**密集** (tied,compact)

**展開** (use space,play wide)

**即座の切り換え** (transition)

**連続** (fire,Repeat)

Transition

最初のプレーを前に

Transition

即座の守備

## Defence

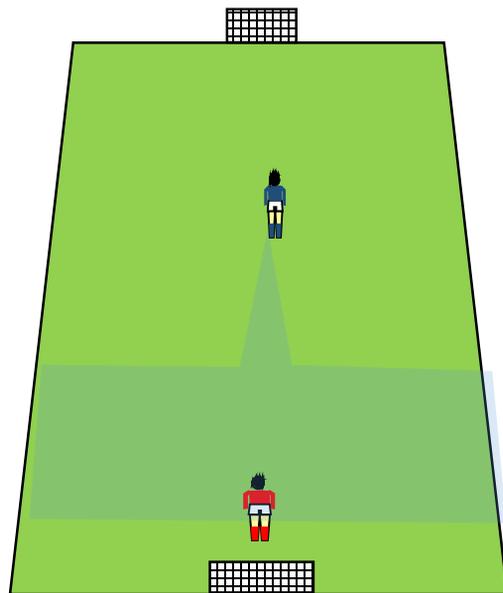
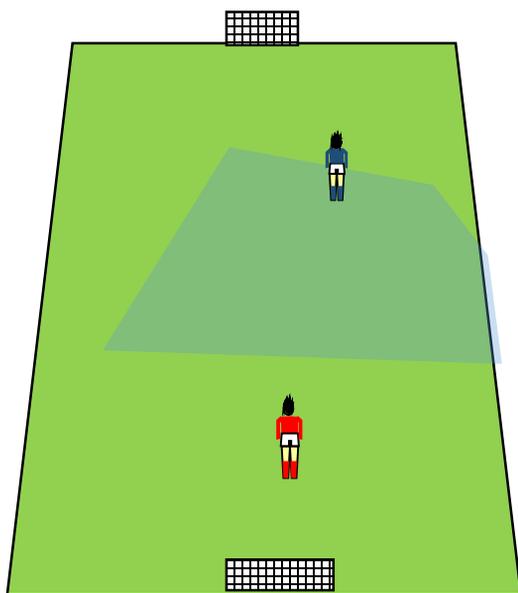
ディレイ・デナイして  
追い込んで  
奪う



## 7. 守備の様相

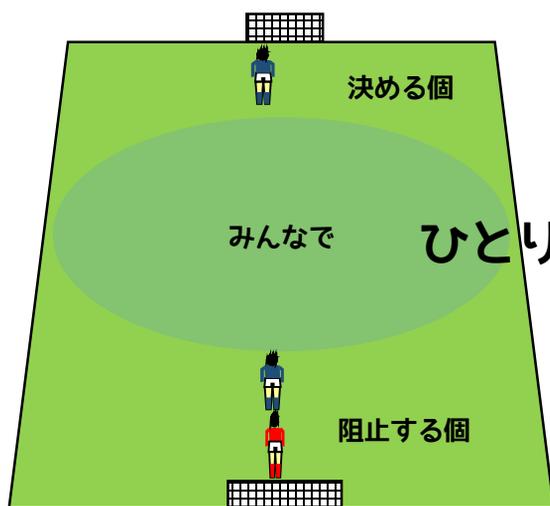
圧力をかけながら限定していく。  
即座の攻撃と効果的な守備を可能にする。

スペースを見つけて使う相手に対しては敗者のサッカー。スペースを使えない相手に対しては効果的。



## 8. ゴールを決める、ゴールを阻止する様相

シュートを決めるのも、最後の最後に相手のシュートがゴールの飛ぶのを防ぐのは個の責任と力による。



シュートを打てば何かが起こる

ひとりの力/幹の太さ、多様性

ファウルしないで阻止する



## 9.戦術とTR 逆算×積算

Go for goal

Make space , play wide / compact , make pressure

### 攻撃

ポゼッションできることが攻撃の前提

個のチャレンジ・グループのチャレンジ  
と即座の守備の担保（行き切る、走り切る、打ち切る+即座の守備）

突破（ドリブル、サイドからマイナスクロスボール、縦横のワンツー、スルーパス、ミッドルシュート、セットプレー）

ボールにプレスがある時のサポートとな  
いときの背後へのフリーランとパス

ボール全体のサッカー

チームコンセプト  
サッカーのスタイル  
ポジション適正（システム）  
**密集・展開・切り換え・連続**

**TRと習慣化**  
**視野の確保・認知**  
**スペースを見つける**  
**スペースを使う**  
**ポジショニング**  
**体の向きを整える**  
**走る**

### 守備

攻めている時のリスクマネジメント

カウンターをさせない攻撃・即座の切り換え

ディレイ・デナイ、圧力をかけながら攻撃方  
向を限定・追い込んで奪う・ラインコント  
ロール+GK

ブロックをつくる(+圧力)

セーフティファーストの徹底

カウンターをさせない攻撃とリスクマネジメントと即座の守備

## 10.技術とTR 逆算×積算

Go for goal

Make space , play wide / compact , make pressure

**Technique(ボール技術+視野の確保・認知)**

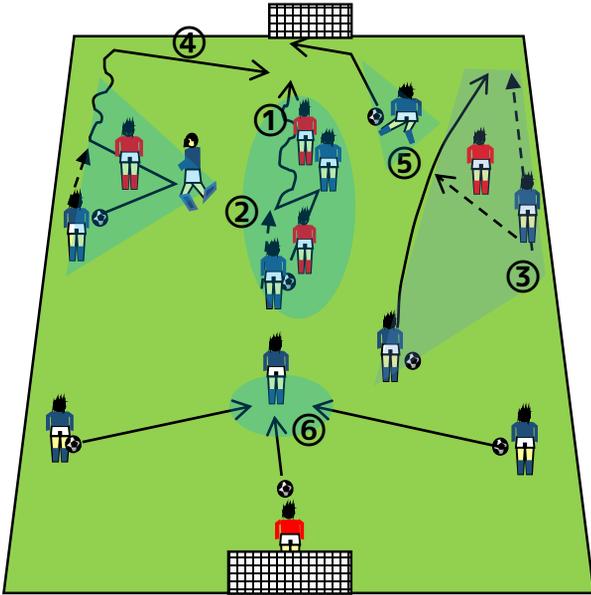
ボール技術・・・15歳までに何もかもできなければならない+視野の確保・認知  
ボール技術獲得の躰けと観る躰け。観ることを習慣化する

止める・渡す・探りながら運ぶ・走る・シュートする  
ハイスピードのボール処理  
浮き球の処理  
ワンタッチプレー  
突破のワンツーパス（縦横）  
スペースに走る  
奪う・奪うチャンスを逃さない  
立ち姿・体幹、下半身の安定。美しいプレーフォーム



# 11.U20分析/**攻撃**の要点とTR

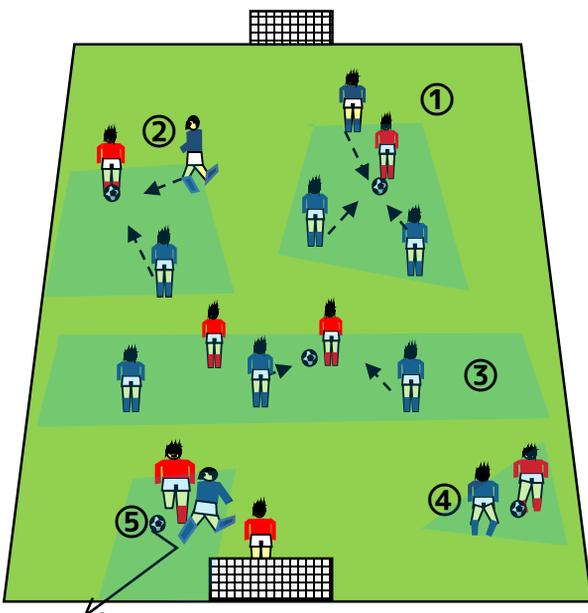
8人で攻め11人で守る（メンタリティ）



- ①技術を武器にインテンシティをもってゴールに仕掛けていく。こぼれたボールを拾って決定機を作る
- ②サイドでの横のワンツープス、中央での縦のワンツープスでスペースを使って突破する
- ③ボールにプレスがないときの相手DF背後へのフリーランとロビングパス・スルーパスの配給
- ④ゴールラインまでボールを運んでマイナスクロス
- ⑤シュートを打つことによって何かが起こる
- ⑥360度からパスを受けられるアンカー

# 12.U20分析/**守備**の要点とTR

8人で攻め11人で守る（メンタリティ）



- ①仕掛けて奪われたボールに対する即座の守備で奪い返す
- ②全員でボールに圧力をかけ相手攻撃をDeny・Delayする（プレスバック、限定、押し込め、ラインコントロール+GK）
- ③最後はブロックを作ってよい体勢で圧力をかける（ブロックを作って相手のミスを待つサッカーではない）
- ④相手が上手に止めたときは飛び込まないが、少しのコントロールミスも見逃さない
- ⑤個の力でピンチを阻止しシュートをゴールに飛ばせない粘り強さとメンタリティ



# 13.密集・展開・即座の切換え・繰り返し

密集、展開、即座の切り替えを可能にする条件とそれらが可能にするものは何かを見つけ出しTRのオーガナイズに生かしてゆく。

## 密集が可能にするもの 密集に必要なもの

リスクチャレンジ、強さを持った強引な仕掛け  
トライアングル  
即座の守備/カウンター阻止  
仕掛けてこぼれたボールを決定機につなげる

スペースを見つけて共有する（相手の足の届かないところにボールを置いていく、スペースにボールを運びだす）  
正確無比なパスワーク・速いパス・受け手に意図を持たせる戦術パス  
ゴールに向かえる正しいポジショニング  
視野を確保する正しい体の向き  
流動的な動きとカバーリング  
ポジションバランス

## 展開を可能にするもの 即座の切り換えを可能にするもの

Play wide  
360度からボールを受ける中継ぎ（アンカー）  
ショートショートロングパス  
ワンツーパス（縦パス、横パス）のテンポ  
サイドチェンジ（数的優位、数的同数）  
即座の守備・奪ったら前へ  
DFラインで時間をかけずにアンカー、サイドを使って前線へ

密集したポジションバランス。ボールの周りに味方が多くいる  
タイミングよい前線の動きだし  
フリーラン。相手の背後にスプリントする  
サイドチェンジのロングパス  
どんな角度のボールも受けられるアンカーとその配球





## 14.勝ちたいサッカー>やりたいサッカー

U17WC、U20WCの様相と日本の育成年代の試合を比較してみると、ゴールに向かうintensityに違いを感じる。全般的に日本の育成年代の選手は失うことを恐れ後ろにプレーし相手の守備を整わせているという現象を招いている。

ボールを失わないことを求めるより、まずチャレンジしてその結果から選手が自分自身を成長させることを求めるべきと考える。失敗と成功から学ばせる指導者のポジティブな思考が求められる。

そして、やりたいサッカーと勝ちたいサッカーを比べるのはナンセンスであるが、勝ちたいというメンタリティを第一にして内容を求めていくのが自然であると考え。

トレーニングのオーガナイズを工夫すべきである。

### サッカーのさせ方

コーチのメンタリティとリンクしている？

**リスクチャレンジ > ボールを失わないこと**

その心は、

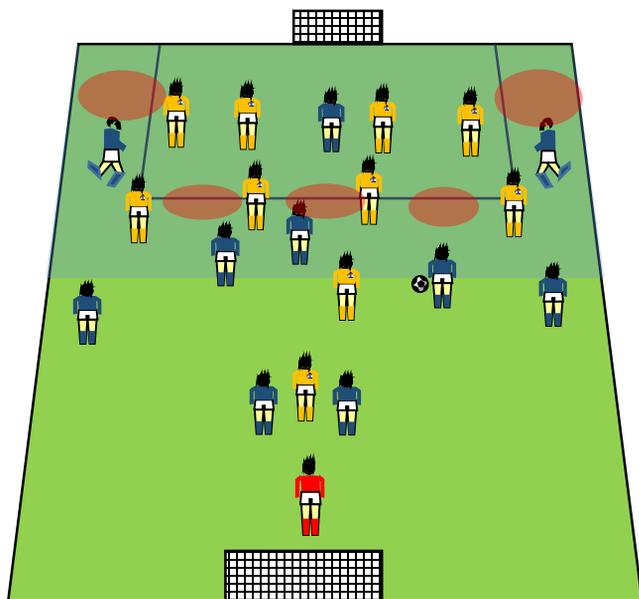
- |             |   |            |
|-------------|---|------------|
| 前にプレーする     | > | ボールを後ろに下げる |
| 繰り返しチャレンジする | > | 失うことを怖がる   |
| 奪い返す、前に仕掛ける | > | 奪われないようにする |



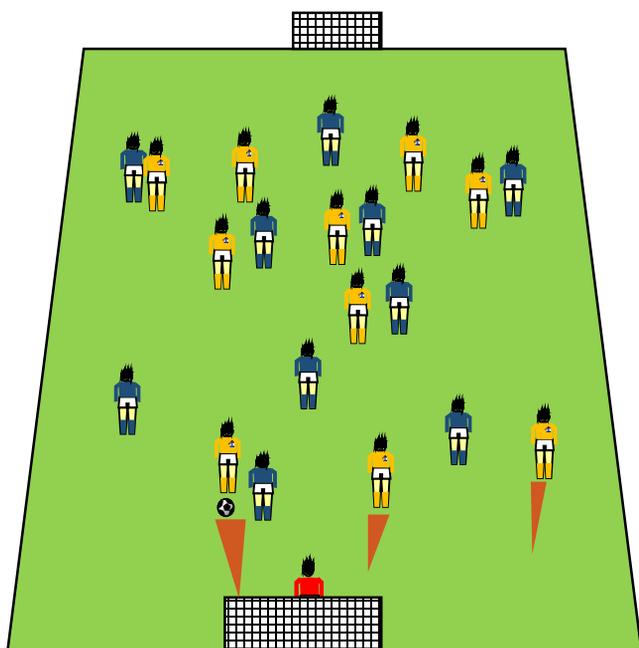
# 15. チーム指導の課題

分析して指摘はできるが解決の方策を見つけ出すのは容易ではない。そこに分析力と指導力の差があり、ほんの少し他の指導者より工夫するクオリティがあれば差をつけられる。

## 1. スペースがないときのバイタルの突破



## 2. カウンターを阻止する攻撃と守備

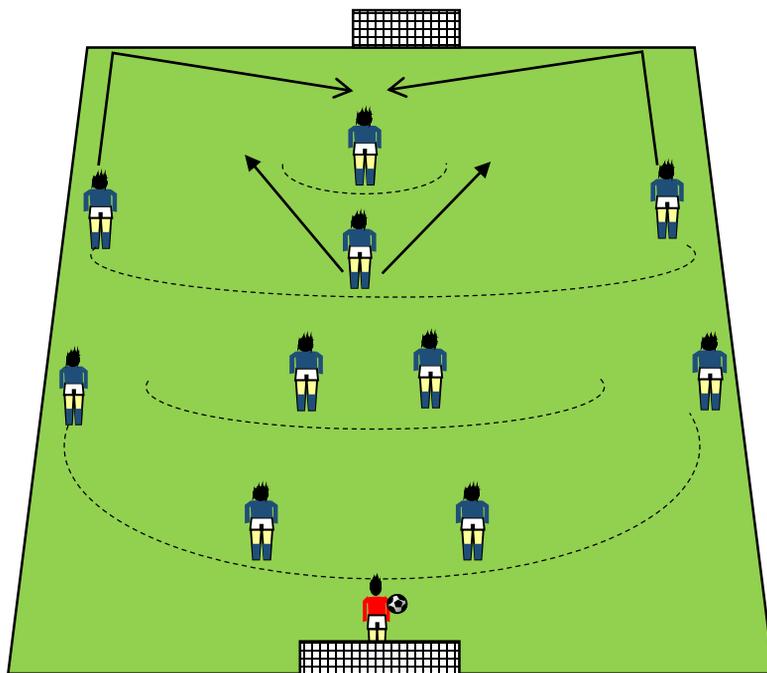


密集・仕掛けのサポート・即座の守備  
シュートフィニッシュ  
サイドからの攻撃  
クロス、球種・質  
中盤でのポゼッション  
スルーパス突破  
Deny, Delay  
攻撃に参加しない選手  
相手選手とのポジショニング  
ファウルで止める



## 16. システムから見たポジション特徴

- ・ 技術に自信を持ち仕掛けるFW、個人で打開するFW
- ・ 仕掛けながら1トップをサポートするトップ下
- ・ ゴールラインまでボールを運んでマイナスクロス  
を配給するサイドアタッカー
- ・ あらゆる角度からボールを受けられるアンカー
- ・ 攻撃に参加しゲームをつくる事に参加するSB
- ・ 体を張ってシュートを阻止するCB (DF)
- ・ 冷静なGK





# 17. サッカーが参考になるかならないか

仕掛ける、奪われれば即座に守備する、高い位置から圧力をかけてボールを奪おうとする。個の技術と力を基本に組織的にパスをつなぎシンプルにゴールに迫る。一旦奪われれば全員で奪い返すサッカーはチーム作りに大きな示唆を与えてくれる。

富者のサッカー For the future

観戦したゲームの内

模倣不可  
(不類似)

模倣可(類似)

貧者のサッカー Non trend

# 18. ROUND16以降の試合データ

ボール支配率やシュート数はデータではなく記録に過ぎない？ 16ゲーム中、支配率が低くても勝利した6チーム。

赤丸・・・支配率低く勝利6 / 16

Actual playing time

Actual playing time

決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
セルビア	○	2	14	57%	37%	75分
ブラジル	×	1	24	41%	63%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
ブラジル	○	0(5)	35	20%	66%	66分
ウルグアイ	×	0(4)	8	25%	34%	

3位決定戦	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
マリ	○	3	21	30%	59%	44分
セネガル	×	1	9	66%	41%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
ポルトガル	○	2	19	42%	57%	58分
ニュージーランド	×	1	8	25%	43%	

準決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
セルビア	○	2	13	30%	45%	75分
マリ	×	1	13	30%	55%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
ドイツ	○	1	16	31%	61%	59分
ナイジェリア	×	0	8	12%	39%	

準決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
ブラジル	○	5	12	50%	64%	57分
セネガル	×	0	6	50%	36%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
ウズベキスタン	○	2	13	23%	53%	46分
オーストラリア	×	0	18	33%	47%	

準々決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
セネガル	○	1	13	46%	50%	56分
ウズベキスタン	×	0	10	10%	50%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
セルビア	○	1(3)	17	29%	49%	70分
ウクライナ	×	1(1)	17	41%	51%	

準々決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
セルビア	○	0(6)	19	26%	47%	66分
アメリカ	×	0(5)	8	25%	53%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
アメリカ	○	1	8	25%	40%	51分
コロンビア	×	0	24	12%	60%	

準々決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
マリ	○	1(4)	18	22%	47%	66分
ドイツ	×	1(3)	11	45%	53%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
セルビア	○	2	18	33%	52%	78分
ハンガリー	×	1	11	27%	48%	

準々決勝	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
ブラジル	○	0(3)	9	33%	51%	64分
ポルトガル	×	0(1)	16	31%	49%	

ベスト16	勝敗	スコア	シュート	ontarget	支配率	時間
マリ	○	3	17	47%	55%	56分
ガーナ	×	0	7	57%	45%	

2

FOR S-PULSE WAY



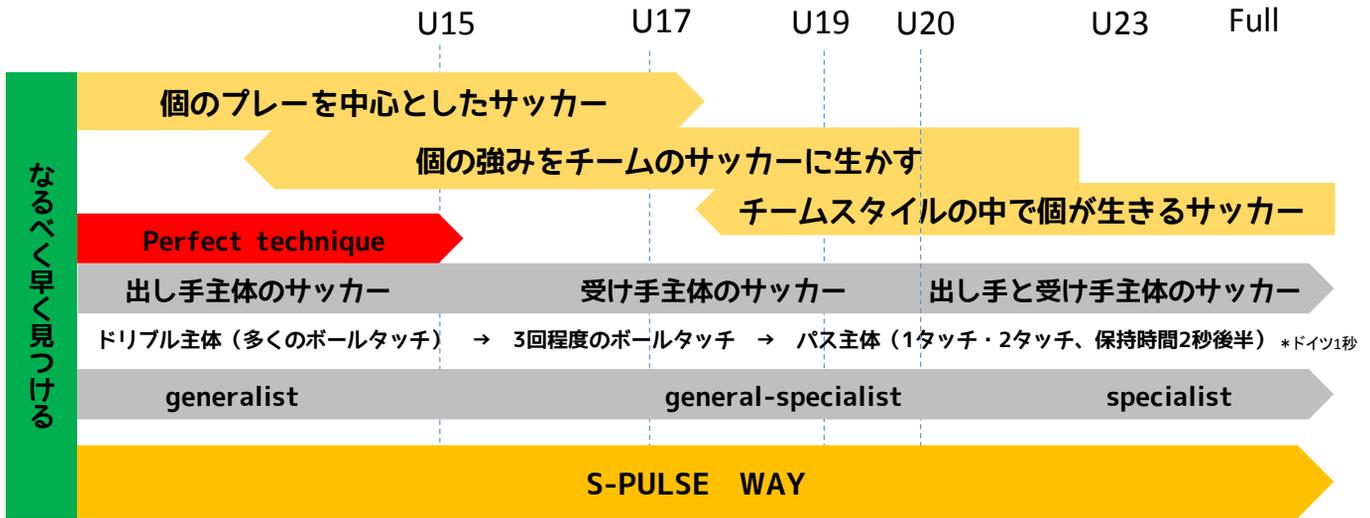
情熱 / タレント / 指導者 / ビジョン / 環境・予算



# 1. 育成のロードマップ

育成はそれぞれの段階の指導者のリレーによって行われ、それぞれの段階を踏んだ指導によって成功する。

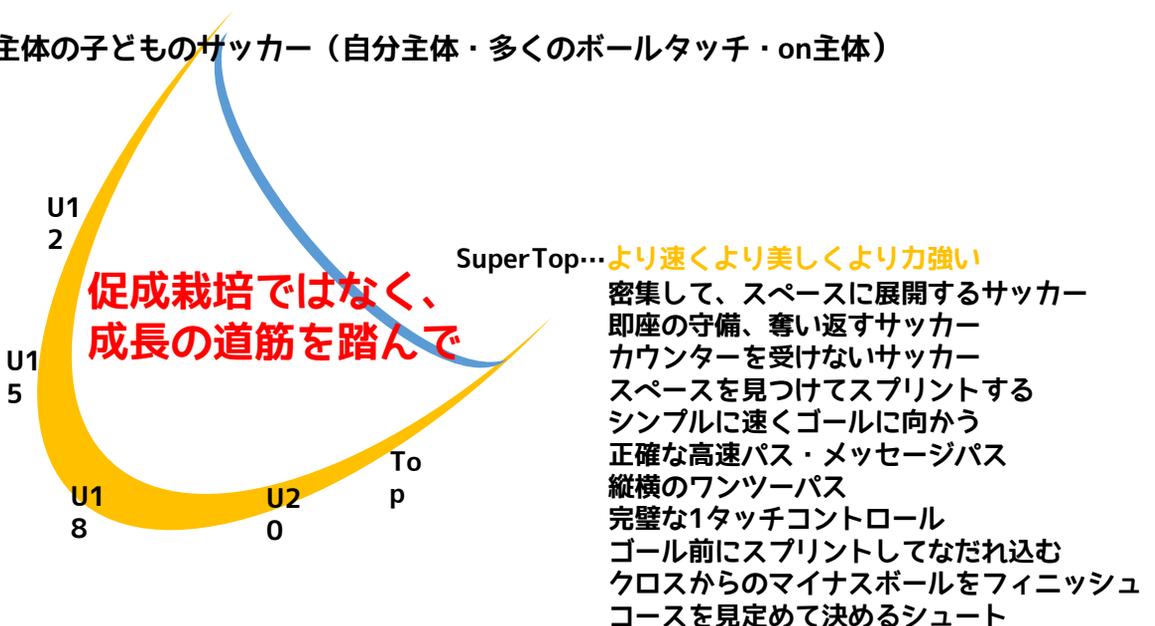
41試合を観ての作成



# 2. 育成のロードマップ

ジュニア年代はテクニック、ジュニアユース年代はテクニック持久的能力、ユース年代はテクニックと力強さとポジション特性というように段階を追って成長させ、個と組織が有機的に機能しながらサッカーをする。

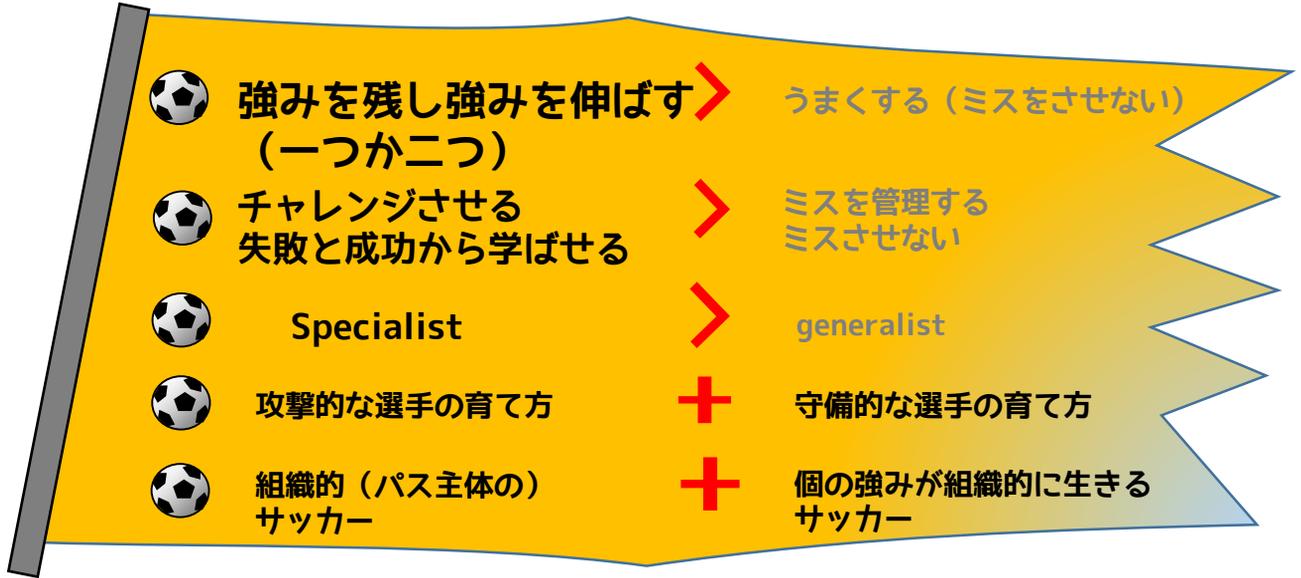
ドリブル主体の子どものサッカー（自分主体・多くのボールタッチ・on主体）





### 3. 育成プロセスのキイ (TR)

特に重要なのはその子どもの強みを残し伸ばしていくこと。指導者がうまくしようと熱心であればあるほど強みは消えて平均的にうまくなる。強みを育てることとうまくすることはどちらも大切だが分けて考えるべきことであると思う。



### 4. 育成プロセスのキイ...個の幹を太くする

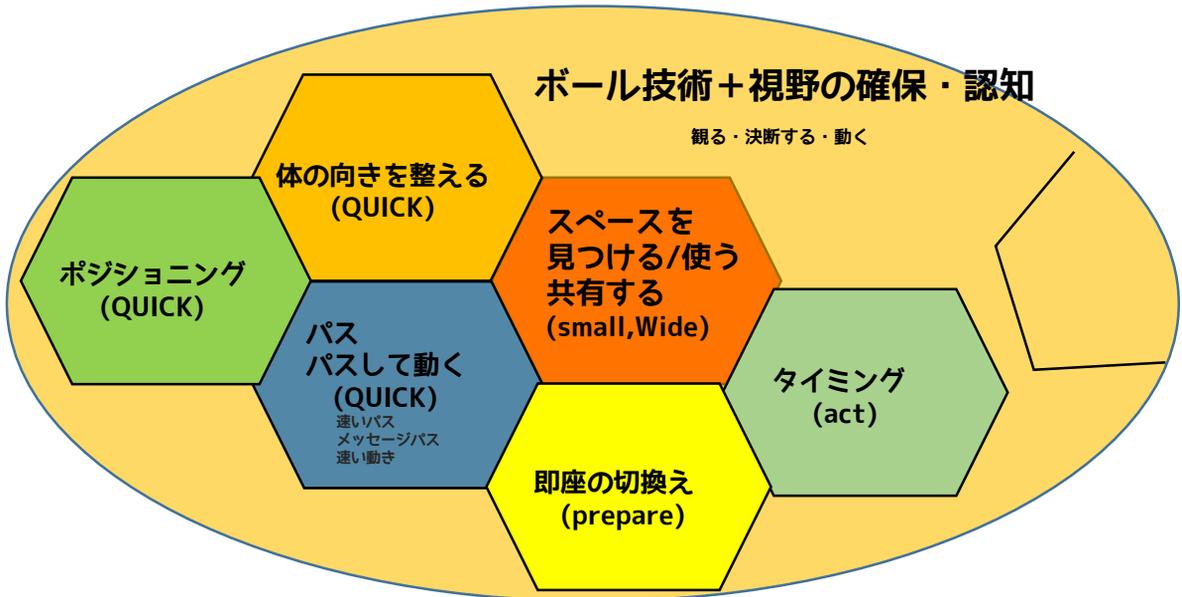
主体性とは何か、それがサッカーの上達にどんな影響を与えるのか。テクニックとは何か、強みを知っているか、その強みを消さずに伸ばすには？。個人戦術とは何か、メンタリティを植え付けるには？よくよく指導者が考えるべきテーマである。



サッカーに対する情熱・考える・選択決断する、責任、リーダーシップ、戦術を語る・逆算思考  
ボール技術と視野の確保・認知  
基礎基本力+ポジションスキル=勝つサッカー  
勝つことに貪欲、負けることは全てを失うこと

## 5.基本のしつけと習慣化（個人戦術）

どんなトレーニングでもインテリジェンス習得のための基本の躰と習慣化が必要で、その項目は決して多くはない。



## 6.クラマーの個人戦術

時代を経てもなお価値あるものを探さなければならない。

ルックアラウンド  
フリーになる  
ボールに寄る  
ボールを弾ませない  
ワンタッチコントロール  
パス&ゴー

奪われた者が奪い返す  
抜かれたらゴールに帰る  
守備の3原則  
ショートショートロング  
ゴール前の詰めの形  
セーフティファースト

# 3

## additional

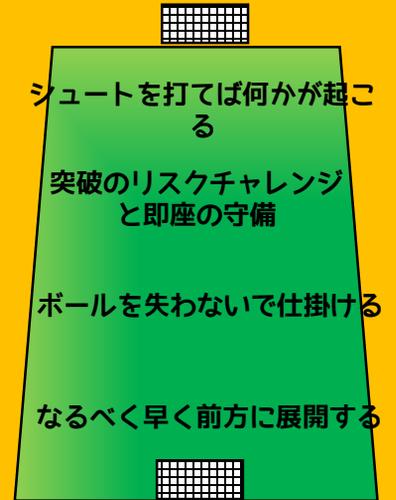
### 1. シンプルなサッカーこそ

シンプルさの中に厚みと奥行きを見つける作業。  
南米型、欧州型サッカーの行きつく先はなんだろう。

突破のリスクチャレンジ > ボールを失わないこと

その心は、

- 前にプレーする > ボールを後ろに下げる
- 繰り返しチャレンジする > 失うことを怖がる
- 奪い返す、前に仕掛ける > 奪われないようにする



### 2. サッカーの基本

「サッカーはとてもシンプルなもの」とスカイシティホテルでお会いしたボラ・ミルティノビッチさんは言った。  
しかし、指導者に基本や当たり前がわからなかったりずれていればサッカーは複雑でむづかしいものになる。

サッカーの原理原則  
サッカーの基本  
技術の基本  
戦術の基本  
攻撃の原則  
守備の原則  
当たり前のことを当たり前にやる

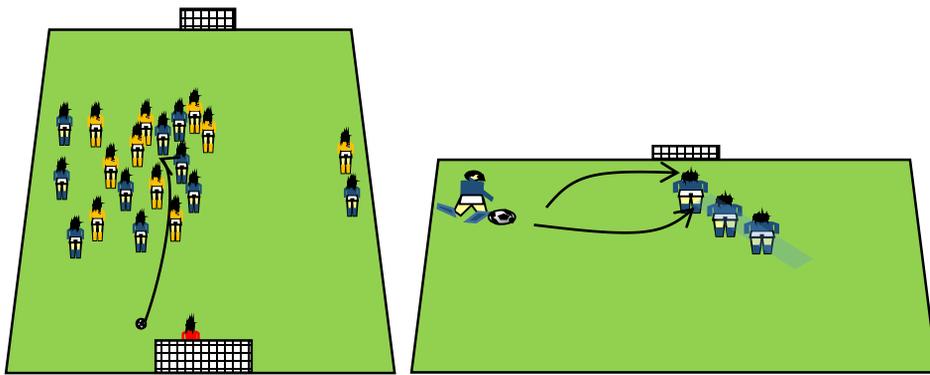
Depend on 指導者の指導力  
技術・経験・知識・情熱  
リスクチャレンジ・好奇心・野心

### 3.ボラ・ミルティノビッチのレクチャー

「サッカーはシンプルなものだ。現象を人よりちょっとだけ丁寧に分析し他人にほんのちよつとの差をつけなさい。分析を課題解決につなげ、トレーニングのメニューを作り、試合の準備に生かしなさい。選手にどんなプレーをしたらいいか伝えなさい。自分のやり方を作り上げなさい」

どんなターンが一番速いのか、あと何センチ間合いを詰めればいいのか、どう立てばいいのか、そのフリーキックはどちらの足で蹴った方がいいのか、CKの詰め方は、ゴールキックに対してどう布陣すべきか。etc  
…個別の相手に対して

分析を積み重ねる…5対2、6対3などの練習はサッカーの基本を学ぶのにとっても良い練習だ。ゴールキックの布陣、FKの蹴り足と詰め方



### 4.技術・経験・知識・情熱

…経験は積むことができるが情熱は積むことはできない

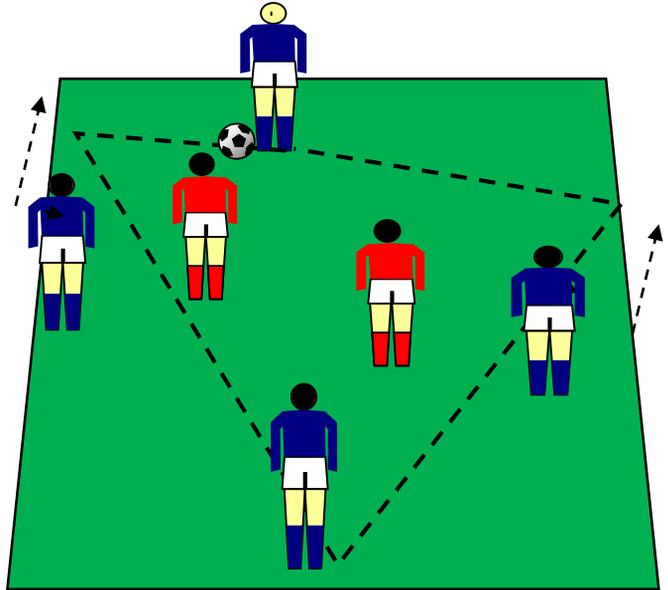
U12～U18年代は、テクニック、戦術、フィジカル、メンタリティ、すべてを教えていかななくてはならない



# 5. RONDO

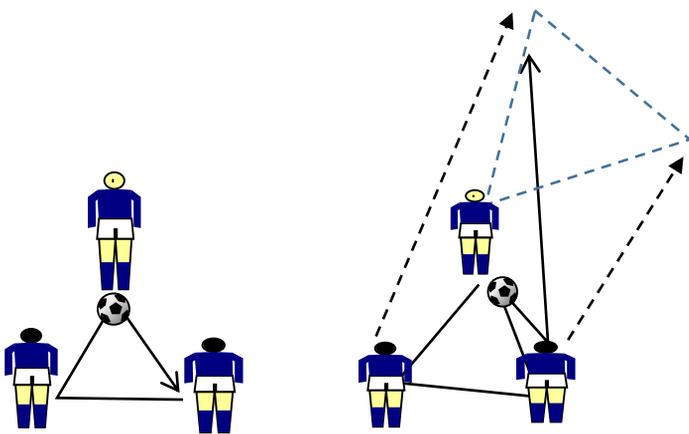
技術の発揮,視野の確保・認知,動く/速い動き・速いパス・正確なタッチ

正しいポジション  
(QUICK)  
正しい体の向き  
(QUICK)  
パスして走る  
(QUICK)  
スルーパス  
(CORRECT)

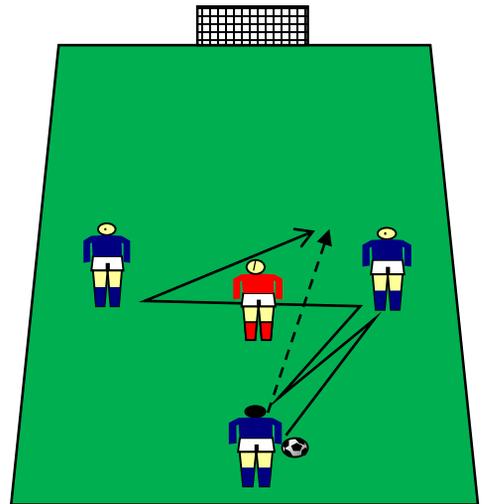


# 6.突破のモビリティdrill

スペースを見つける・使う/速い動き・速いパス・正確なタッチ



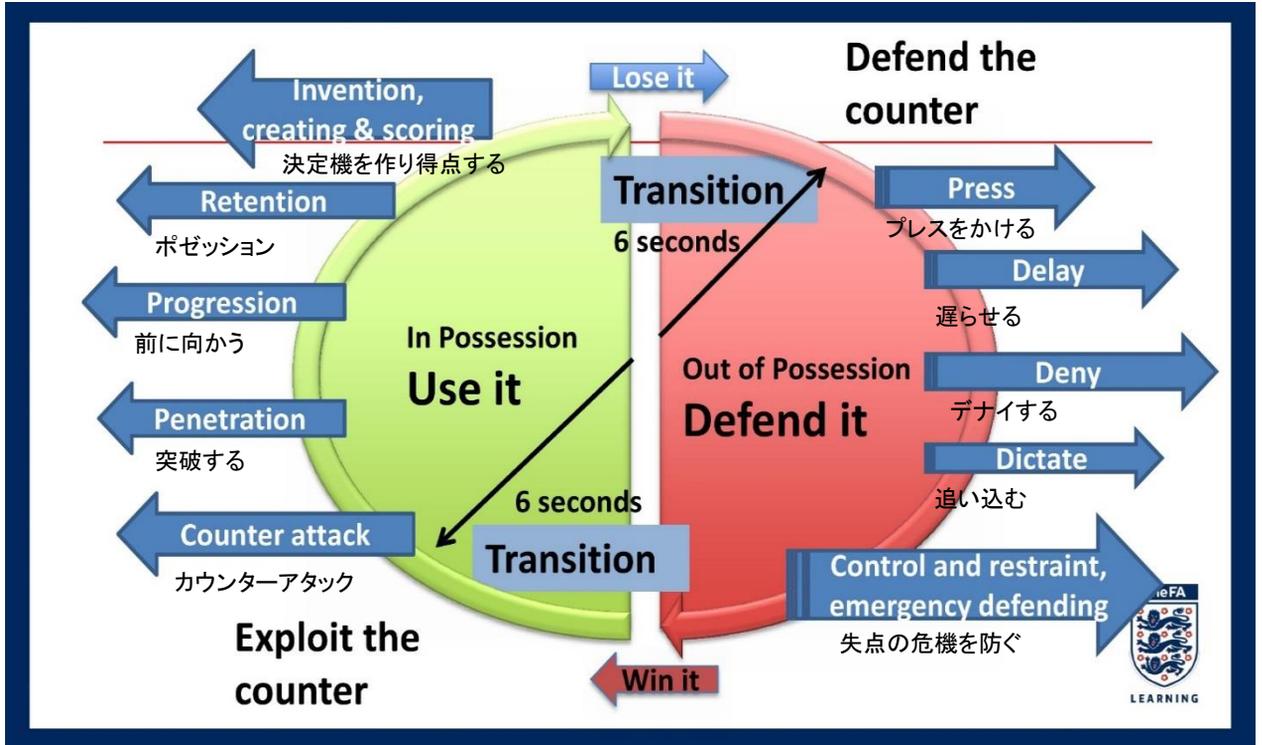
トライアングルパス  
→トライアングルを崩す



ワンツーパース (縦横)  
フリーラン (QUICK)  
パスクオリティ  
(スピード・メッセージ)

# 7.F.Aコンセプト

The principle of play



# 8.T-cloud

private

## サッカーの原理原則

Make space, play wide / make pressure, compact  
ゴールに向かう、ゴールを守る、即座の切り換え

攻撃

切り換え

守備

密集・展開・即座の切り換え・繰り返し

チーム戦術・グループ戦術・個人戦術

チーム戦術・グループ戦術・個人戦術

チーム戦術・グループ戦術・個人戦術

突破・幅と厚み・モビリティ・即興性/遅らせる・集中・深さ

## 私のサッカーの基本

正確性、スピード

ボール技術

基本的な動き

アクセラ、ターン、ストップ、ひねり、ジャンプ、スプリント

Physical fitness

優先順位

Look around

フリーになる動き

ボールを弾ませない

ボールに寄る

意図を持った1stタッチ

Pass and go(quick)

素早く正しいポジションをとる

体の向き

速いパス

スルーパス

チャレンジ&カバー

スペース /find,create,use

コンタクトプレー

視野から消える /視野の確保

アイコンタクト

タイミング

走る/速い動き

ショート  
ショートロング

## 9.資料

### ▽技術的なデータ

- ①1タッチパスの成功率が8%増加(プレミアLのトップ4)
- ②プレミアリーグのパスの80%は1タッチもしくは2タッチパス
- ③チャンピオンズリーグの1タッチパスの成功率は84%
- ④1人の平均ボール保持時間:プレミアLは2.67秒、国際試合は2.94秒(ドイツ1秒)
- ⑤1人の平均ボールタッチ数:プレミアLは2.04回、国際試合は2.17回
- ⑥GKは手を使うより足を使う頻度が7倍多い

### ▽フィジカルのデータ

- ①総移動距離:1965年から2013年まで50%増加
- ②スプリント数、High Intensity数が2002年から2013年にかけて2倍に増加
- ③平均プレー時間(ActualTime):1990年は55分、2010W.Cでは68分

### ▽戦術的データ

- ①試合中のさまざまなシステムの変更
- ②試合中のさまざまなポジションのローテーション
- ③ポジションの区別がますますなくなっている(CB, SB, MF, FW)。複数のポジションをこなせる選手の存在が重要度を増している。

## 10.U20レポート (J提出 2015.7.2)

### ■U17ワールドカップでの認知、発見(指導、内容等の詳細削除)

- 「魅力あるサッカー」がサッカーの王道  
…ファンがいなかったら草サッカーと同じ
- 個々の選手のポテンシャルや強みに寄り添った指導
- 技術は全ての部屋に入るための鍵
- 止めて蹴って走る、これがサッカーの原点
- 「ゴールに向かう」「ボールに対する責任」
- 「あのシュートが決まっていれば」を「あのシュートが決まったから」にする練習
- サッカーの命題は決定機をつくる事
- 奪いに行く守備
- 切り換えの瞬間の意味
- 毎日のトレーニングでM-T-M、一週間のトレーニングでM-T-M
- 選手のマネージメントと重大なミスをした時のケア
- サッカーの基本の土台に立つ多様性と独自性構築
- チームと指導者のメソッド構築

## ■U19アジア予選での認知、発見（指導、内容等の詳細割愛）

- システムやボール支配率が決定的要素ではない
- 日本人の技術の高さ、持久性能力を勝利に結びつける日本のサッカーの構築
- 先制点を奪う戦術（先制点勝利確率はおよそ70～80%）
- 決定機を作り決定力を発揮するトレーニング（エスパルス育成と県下92チームにアンケートし普段のシュートとゴール前の練習%を全体の40%にするよう提言）
- ゲームを読む選手の育成。主体性の育成、コーチングの必要性
- 多くボールを奪うサッカー  
...アリバイディフェンスの排除、個のドーベルマンディフェンス
- 即座の切り換え
- ジェネラリストではなくスペシャリストの育成
- サッカーと質と走ることを一致させる

## ■U20ワールドカップでの認知と発見（指導、内容等の詳細割愛）

### □全体

- 年齢の異なる育成年代の代表試合を継続して観る意義→育成プログラムの参考
- サッカーのシンプル度を高めること→真理がシンプルな高質にあることを知るための指導者の経験値・技術・情熱が不可欠
- 個の幹を太くする→U15までに技術のすべてを教える。U17前後まで選手の主体性、テクニック、強みに注目して育成。技術、戦術、体力、メンタルは並行して育成
- 徹底した分析をチームの改善にほんの少し役立てるための工夫が効果を生む
- 模倣+自分の道→模倣することは効果的だが、追い越せない
- U20までの大会では1人がボールを多くタッチするが、U23、フル代表でのボールタッチ数2回以内、ボールタッチ時間1秒前後へのサッカーへの途上にあると推測
- 走る→世界スタンダードである13km/1人に向かう途上。攻撃時の運動量><守備の運動量の差異は、質はもちろんサッカーのスタイルと戦術の違いであると思われる
- 戦術...密集して仕掛ける・広く展開する・繰り返す。カウンターは武器だが志向性は少ない
- ゴール前ではシュートもシュート阻止も責任を持った個人対個人の戦い
- どんな角度からもボールを受けられるアンカーが攻撃の鍵
- ディフェンスラインでの無駄なボール回しはいらない
- アフリカ、マリの攻守に洗練されたサッカーに驚き

### 攻撃

- スペースを見つけるインテリジェンス・共有する戦術がブロック守備を打ち破る
- 探りながらボールを運ぶ出し手主体のサッカーが変化を生む。時として攻撃のスピードを鈍らせる
- 仕掛ける・奪われても即座の守備から再び仕掛ける戦術（密集した攻撃）
- Onにプレスがあればサポート、onにプレスがなければDFの背後にフリーラン・パス
- スペースを使ったサイドでの横のワンツー、センターでの縦のワンツーが攻撃のスイッチを入れる
- シュートの場面は個の力
- 11人で守って8人で攻める近代サッカーと10人で守って4人で攻める古典的サッカーの二つが存在
- GK、サイドアタッカー、アンカー、ストライカーが勝つチームにはいた
- ゴールラインぎりぎりまでボールを運んでマイナスボールを配給する戦術的価値の再認識

#### □守備

- カウンターをさせない攻撃の戦術と即座の守備（自由を奪う）の躰と訓練
- 巧くボールを収めたときは飛び込まないが、わずかなミスを見逃さない個々の守備
- 攻撃の方向を限定しながら圧力をかける個と連動した守備
- FKで止めざるを得ない多くのファウルと攻守の連動欠如、個人のミスがピンチをつくる場面があった
- 最後は個が体を投げ出して相手のシュートを阻止している
- 常に冷静なGK（ハンガリー）

#### □その他

- 「サッカーの基本、戦術の基本、サッカーはシンプル、当たり前のことを当たり前にする」などの意味やコノテーションに指導者間でばらつきがあると「サッカーはシンプル」が「サッカーは複雑なもの」になる。その影響を受けるのは選手自身である。クラブ内では問題は少ないが地域からの育成を考えると指導環境へのポジティブな関与が必要であると思われる。
- 基本のおさらい...技術論、ボールを弾ませない、奪われたら奪われた本人が奪い返す、抜かれたらゴールに戻る、ファウルをしない、ショートショートロング、フリーになる動き

## ②世界との差

日本代表が出場していないので代表レベルの差は不明。自チームとの差も同様であるが、技術のディテール、体力的かつ歴史的民族的メンタリティの強さを背景に、戦術をシンプルにやりつくす質量に差を感じる。個人の差は、想像力を働かせるならば、個の幹（主体性・ゲームテクニック・強みの活かし方）の差、ポジションの専門性の差。

差を埋めるには、アジア全体のサッカーのレベルアップ、選手の国際大会での多くの経験、リスクにチャレンジしながらプレーするサッカー文化の創造、指導者が日常的に日本のサッカーから離れ指導の本質を知るための継続的先進サッカーの学びや海外経験が必要。海外のサッカーから日本の強みを探る視点。情報に戸惑うことなく指導者の、サッカーの変化パートと不変化パートの理解が必要。